

さがみのくにおおやまでら だいどうふうどうみょうおうおん
ゆらいき せつぞくふうどうそんおんれいげんき

#32 相模國大山寺 大堂不動明王御由来記

接續不動尊御靈驗記

作者：植木彌一（うえき・やいち 生没年不詳）

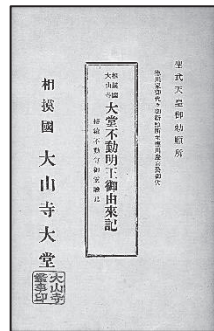
刊行：明治33年（1900）



📖 解題

■ 内容

本書は、『大山不動靈驗記』の一部分を読み下し文にて掲載し、それに「大山大堂建築事務所報告」、「ひじり良辨」、「大山寺不動明王御供米田地寄附ノ理由」、「大山不動明王靈驗記獻納由來録」などの文章を加えたものである。また、明治16年(1883)の相模國中郡子易村字這子坂における大山不動明王の靈驗譚も紹介されている。さらに、著者が経営する会社で販売している菓の宣伝文も掲載されている。



[K18.64/18]

『大山不動靈驗記』は大山不動明王の靈驗譚などを主に収録したもので、寛政4年（1792）に刊行されたというが、当館所蔵のものは、奥付が失われている。全15巻（当館所蔵のものは合本されているため8冊）・131話からなり、そのうち本書に掲載されているのは10話で、掲載順は原本と異なっている。それらを掲載順に紹介すると、第1巻から「開山良辨僧正傳」、「中興開山願行上人傳」、「大山寺造營御修理年時」、「御代々御朱印」（途中から内容が当館所蔵の『大山不動靈驗記』と異なる）、第10巻から「曾我兄弟不動へ願書を捧げて親の敵を討し事」、第4巻から「甲州の儒教阿遮梨信玄公の息女の狂心を祈りて平癒せし事」、第5巻から「相州煤ヶ谷村九兵衛か孫痢病平癒の事」、第13巻から「相模國大住郡山王原村大工明王太郎

が事」、第15巻から「不動尊泣玉ひし事并に風も無に大木の折し事」、第13巻から「相模國大住郡大槻村唐獅子鳥羽藏不動尊を信して力を得たる事」となっている。また原本と同じく、序文が2つ掲載されている。

本書は、国立国会図書館サーチ、CiNii Books によれば、当館以外に所蔵が確認できなかった。

■ 作者

植木彌一は、相模國大住郡大句村（現伊勢原市）の住人で、「東京都浅草並木町」にあった「順天堂合資會社」の社長を務めている。また、明治19年（1886）に『大山不動靈驗記 一』を刊行している。これは『大山不動靈驗記』の一部分を翻刻したもので、掲載されている話と掲載順は本書と同じである。当館未所蔵だが、国立国会図書館デジタルコレクションで公開されている。巻末の「附啓」には「十五ノ全冊悉ク発行スヘカラス因テ縮刷シテ五巻トナシ」とあるが、続刊については不明となっている。

『大山不動靈驗記』の作者は心藏といい、大山寺塔頭養智院の前住職である。『大山不動靈驗記』は、心藏自らの見聞や御師等からの聞き取りをもとにまとめられている。

参考文献

- 『大山信仰』圭室文雄編 雄山閣出版 1992 [K17.64/33] [163.1/102]
- 川島敏郎「古記録から見た大山信仰の諸相：『大山寺縁起絵巻』・『大山不動靈驗記』を中心として」（『神奈川県立公文書館紀要』第6号 神奈川県立公文書館 2008）[K01/71/6]
- 鈴木めぐみ「かながわ資料室所蔵の大山関係資料について」（『神奈川県立図書館紀要』第9号 神奈川県立図書館 2011）[K097/4/9]
- 川島敏郎「『大山不動靈驗記』にみる庶民と信仰：縁起が語られ、広まるわけ」（『あつぎ 縁起書の世界：神さま仏さまのプロフィール』厚木市郷土資料館編 厚木市教育委員会 2012）[K17.92/15]